



マイ・カー・デモ・リンク

心をいやす我が家のミニガーデン

ちょうど1年前、「ゴールデンレトリバー(雄犬)アトム」が病死してしまいました。それまでは毎日、主人や娘と散歩しながらよその庭の花を眺めたりするのが私の楽しみでした。私も旅先で倒れたのをきっかけに足元が悪くなり、自宅の庭を眺めることが唯一の楽しみとなりました。小さな庭に出てかわいい花を見ていると本当に心が安らぎます。



花の種や球根をまくのは息子の仕事、これが一番大変です。水をくれるのは私と主人の仕事、そして何といたっても楽しませてくれるのはアトムの周りにあったいろいろな草花、今年は、今まで以上に大きな花を咲かせたチューリップ、スイセン、ムスカリに満足しています。



原町の久保勝市さん・ミツエさん

これから家族みんなでもかわいい花を咲かせ、道行く人にも心を和ませたいと思います。

駒ちゃんの相棒ミーちゃん!

私たち夫婦は、結婚8年目にして念願の愛娘“駒妃”を授かりました。実母が亡くなった半年後、落ち込んだ私を明るい未来へと導いてくれた駒妃も今年の3月で満1歳。子育てでは想像以上に大変なものだと実感しています。慣れない育児を手助けしてくれるのが実家の兄家族なのですが、中でも一番頼りになるのがネコの『ミー』です。耳を引っ張られ、毛を引っ張られ、あげくの果てには口におしゃぶりを突っ込まれても我慢をし続けているミーは、駒妃のことを妹のように思っているのかしら?ミーのおかげで私はつかの間の休息をとることができます。

駒妃にはミーを通して尊い命の重みを知り、思いやりのある子に育ててほしいと思っています。

西町 瀬 光世さん 32歳



KOGA 万華鏡

日光、江戸間距離早わかり 古河藩のプランナー 鷹見泉石の「日光駅路里数之表」

いまから180年前、文政6年(1823)のこと。江戸と日光とを結ぶ諸街道の距離を簡便に、しかも途中のいかなる宿駅間の距離も一覽できる表が刊行されました。

「日光駅路里数之表」と名づけられたこの距離早見表、高速道路の料金早見表と同じものだね、とおっしゃる向きもあ

りでしょう。こうしたものは案外早くからあったのだねなどと言うなかれ。

日光、江戸間のものとして

は日本初の距離早見表なのです。制作者は、古河藩きってのプランナー 鷹見泉石。泉石像を飾ることはさまざまありますが、ぶらんなー?・・・

この問いを解くために、この作品が製作されたいきさつについて簡単に触れておこうと思います。文政年間、日光社参の計画がもちあがり、す。そつ、徳川將軍一行の東照宮参詣ですが、十数万を越える行列の移



鷹見泉石の「日光駅路里数之表」

動する、たいへんスケールの大きな幕府の行事でありました。古河城は、往復二泊の將軍泊城となっており、古河藩ではその応接に多忙をきわめることになりました。

なにしろ、幕府それ自体が移動してくるようなもの。古河藩の対応が評価の対象となつて、どのように喧

しょうか。お金をかけずに、智慧をしばつておもてなしをする。この利便性の高い当時としてはたいへん珍しい表は、そうして誕生したのでした。鷹見泉石は、この江戸時代きつての一大イベント誘致を成功に導いた、プランナーでもあったといえましょう。(テーマ展「鷹見泉石の文物」開催中、7/21まで)

古河歴史博物館 学芸員 永用俊彦